

していたこと、また広域的な実習巡回経験の中でとりわけ当該 N 県内の施設とベテラン指導員の実習指導能力の高さに感銘したことを振り返り、本論文の実証研究のフィールドが説得力ある知見を得るのに好適であることを証言したい。

制度上も実習の重視が格段に強められている。1997 年 12 月に精神保健福祉士法が成立し、福祉士養成大学に PSW の養成が行われるようになり、それらにて実習教育が重視され行われたが、2010 年 3 月 29 日付けで改めて厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課より「精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」が示達され、PSW 養成教育における実習教育の量的質的改善の具体的指示が行われ、各養成大学はカリキュラムの大幅改定と教員資格基準の厳格化を行なった。その中で最も重視されたのは実習教育の改善であったが、もともと実習教育は福祉士養成教育の中心、集大成をなすものとされていたが、その一層の量的質的改善を求められたわけで、「実習教育のあり方」について調査し研究する必要がある一層は大きくなっている。ところが、この重要性にも関わらず、「あり方」に関する調査研究は絶対的に不足し、水準の高い本格的な先行研究は依然ほとんどない。

専門的な実習教育担当者である宮崎は、本論文においてあえてこの欠落を埋める冒険的研究を試み、未開拓の領域に鋏を入れた。本論文では、とりわけ聴き取り調査の設計と実施、そしてその整理が中心をとし、とくに現場に居る 13 年間の卒業生と実習先の全国トップクラスの指導員からの聴き取り調査とその記録の整理を行っている。圧巻である。

よって本論文は、研究成果の独自性と創造性と社会的貢献性が顕著である。理論的考察にもっと厚みをとるか、国際比較などもほしいなどの、ないものねだりもありうるが、それらは他日を期すことにして、これだけでも博士論文の要件を満たしていると評価したい。

以上により、論文審査および最終試験の結果に基づき、審査委員会において慎重に審査した結果、本論文が博士（保健福祉学）の学位に十分値するものであると判断した。

学力の確認の結果の要旨

本論文の審査を通して学位申請者の学力の確認を行ったところ、博士として十分な学識を有していることが確認できた。以上により、本学位申請者は博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると判断した。